

| | INF | REF | こども | 電話 | メール | 中央計 | 行徳 | BM | 南行 | 信篤 | 平田 | 駅南 | 全館計 |
|----|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-------|----|-----|-----|-----|-------|--------|
| 5月 | 1,176 | 751 | 686 | 228 | 9 | 2,850 | 1,151 | 40 | 182 | 192 | 115 | 1,035 | 5,565 |
| 累計 | 2,320 | 1,513 | 1,428 | 410 | 16 | 5,687 | 2,195 | 96 | 421 | 433 | 239 | 2,210 | 11,281 |

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📄 今月のレファレンス記録票から

| 分類 | 質問と内容 |
|----|-------|
|----|-------|

I/C2 市川市行徳地区に「ムロ」という地名、または「ムロ」のつく地名はあるか。

『市川市の町名』（市川市教育委員会 1987）p. 26-28の「地名等対照表」には「ムロ」のつく地名の掲載なし。『市川市字名集覧』（市川市教育委員会 1973）p. 48-64 大字索引、小字索引より「ムロ」のつく地名を探したところ、p. 60に、小字「ひえむろ（寒室）」（大字は真間）「ひえむろでぐち（寒室出口）」（大字は市川）が該当した。p. 2, 6より「寒室」「寒室出口」ともに現在の市川2丁目、3丁目の一部となっており、行徳地区ではなかった。また、『角川日本地名大辞典 12 千葉県』（「角川日本地名大辞典」編纂委員会／編 角川書店 1984）の資料編「小字一覧」p. 1364-1366の「市川市」の項を同様に確認したが、「ムロ」のつく地名は、「寒室」「寒室出口」のみであった。

→TOPICS

358 労働人口の推移の予測（男女別・年代（年齢）別・地域（日本・世界（アジア・北米など）別）を2030年まで（2040年・2050年もあれば）知りたい。

①『データブック国際労働比較 2018』（労働政策研究・研修機構 2018）p. 58に「生産年齢人口（15～64歳人口）」として2020年、2030年、2050年の主な国別の数値あり（男女別・年齢別はなし）。②『人口の動向日本と世界：人口統計資料集 2019』（国立社会保障・人口問題研究所／編 厚生労働統計協会 2019）p. 33に「世界の主要地域・年齢（3区分）別人口」として15～64歳、地域別の2050年、2100年の数値あり（男女別・年齢別はなし）。また、p. 139に「性・年齢（5歳階級）別労働力人口の将来推計」として、日本の男女別、年齢別の2020年、2030年の数値あり。

①p. 58と②p. 33の出典である国連（UN）のウェブサイト「World Population Prospects」（<https://population.un.org/wpp/> 2019. 6. 21確認）にアクセスしたところ、「population by age and sex」より男女別・年齢（5歳階級）別・地域別で1950年～2100年までを5年毎に検索することができることがわかった。地域を選び、労働人口として年齢は15～64歳を選択、2020年～2050年で検索したところ、結果は2020年、2025年、……2050年と表示された。人口の単位はthousands（千）。なお、地域はアジア・北米などの大州で検索でき、結果は大州の他、国名でも表示される。

813.2 「𣎵」（IMEパッドで漢字変換できない文字）という漢字が、『大漢和辞典 修訂版』（諸橋轍次／著 大修館書店）で探せなかったが、掲載されていないのか。

『大漢和辞典 修訂版 巻13 索引』の部首「さんずい（氵）」の項には掲載なし。「𣎵」という漢字が掲載されていた資料（書誌不明）から「漆」の意のようだったので、「字訓索引」のp. 558「うるし」から調べたところ、「𣎵」の字に含まれる「氵」「七」「木」と同じ構成の漢字「柒」が、『大漢和辞典 修訂版 巻6』（1985）p. 263に掲載があることがわかった。漆と同じ。なお、「𣎵」は『大漢和辞典 修訂版』に掲載されていない。

914.6 大江健三郎の「存在の習慣」を読みたい。

「存在の習慣」という題名では所蔵がなかった。Webで検索したところ、筑摩書房のPR誌『ちくま 2007年3月号』(http://www.chikumashobo.co.jp/pr_chikuma/0703/070302.jsp 2019.5.28 確認)に掲載されている青山南氏の「存在することの習慣とは」の中で、大江健三郎がフラナリー・オコナーの書簡集『存在することの習慣：the habit of being』を講演会で「人生の習慣」と紹介したことが取り上げられている。大江健三郎の『人生の習慣(ハビット)』(岩波書店 1992)は中央図書館で所蔵あり。

919.6 福沢諭吉の漢詩「花を惜しむ」「社友小集」が掲載されている本はないか。

『福沢諭吉全集』の索引からは該当なし。NDLのレファレンス協同データベースより「花を惜しむ」が「惜花」という題名で『福沢諭吉全集 20巻』(岩波書店 1971)に収録されていることがわかった。「詩・歌・語」の項を確認すると、p.465に「惜花」の掲載あり。また、「社友小集」も同様に掲載がないか調べたところ、p.432-433に「己卯春日舊社員小集有感」という題名で掲載があった。「光陰如矢十餘春」から始まる漢詩。

他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

| 分類 | 質問 | ⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など |
|-------|--|----------------|
| 188.9 | 日蓮宗の数珠の房は2本と3本になっているが何故か⇒『合掌と念珠の話』(伊藤古鑑/著 大法輪閣 1980) p.161-162より、一方に二紐、また一方の二紐には、別の一紐を数取りとして加えており、これが日蓮宗の念珠(数珠)の特長とある。また、京都市にある日蓮宗長唱山 ^{だいらゆうじ} 大立寺のホームページのコラム「お数珠について①」(http://dairyuji.net/column3.html 2019.5.28 確認)に詳しい記載がある。なお、数珠のかけ方は、『うちのお寺は日蓮宗』(双葉社 1997) p.196にあり、房が2本の方を右手に、3本の方を左手にかける。 | |
| 210.5 | 江戸時代の時間について知りたい⇒『図解江戸の暮らし事典』(河合敦/監修 学研パブリッシング 2012) p.18「時刻」、『江戸のくらしがわかる絵事典』(宮本袈裟雄/監修 PHP 研究所 2003) p.70-71に「暦と時刻」の記載がある。日の出から日没、日没から日の出までを六等分して一刻 ^{いっこく} という一つの単位とするため、季節により一刻の長さは異なる。 | |
| 813.6 | 真間の地名の由来を「崖(ガケ)」と聞いたが、「まま」に崖の意味があるのか⇒『角川古語大辞典 第5巻』(角川書店 1999) p.436より、「まま(崖)」の項目に、「がけ。急斜面の地。」の語釈あり。 | → TOPICS |
| 983 | 子どものころに読んだトルストイの「公平な裁判官」を読みたい⇒『トルストイ全集 13 民話と少年物語』(トルストイ/著 河出書房新社 1975)に「公正な裁判官」の題名で所収。 | |

TOPICS 市川の地名

地名は、土地の歴史や自然環境を知る手がかりともなります。図書館では、市川市の地名の由来についてまとめ、ホームページで公開しています。町名は五十音順に並んでおり、地名の由来が掲載された資料をPDFで見ることができます。例えば、中央図書館のある「鬼高」の地名の由来を調べてみると、明治44(1911)年から大正8(1919)年にかけて実施された「八幡町外九ヶ町村耕地整理組合」による耕地整理の結果、誕生した地名であることがわかります。中山村では、総武線以南の地域を一括して、大字の鬼越から「鬼」、高石神から「高」と一字ずつ取って新たに「鬼高」と名付けました。鬼がつく「鬼越」の由来も気になりますが、諸説ありますので、ぜひホームページでご確認ください。

なお、地名の由来が掲載された資料は、以下の3点です。

- 「市川のまち 地名の由来」:「広報いちかわ」昭和63(1988)年4月から平成3(1991)年3月まで毎月15日号に掲載されました。執筆は、元社会教育指導員 綿貫喜郎氏です。
- 「あの街この町」:「広報いちかわ」昭和52(1977)年11月から昭和54(1979)年3月まで掲載。
- 『市川市の町名』(市川市教育委員会 1987) ページの紹介のみで、リンクはありません。